世説新語茶全

へ13
1963
20

世話新語集

明和生誕詳
覆蓋　九年房梓

序

家蔵合半版

文花の下枝居續ハ京糸よ国ゝ移のお
乃酔ぎ気ゝ玉風吹ゝ体然や欲へや
欲今仏ゝ極楽浄土へ行時ハ弗く
歌の京見でゝあまいぞくと説ゝ出てゝ
雨の降ゝ来ゝ降ゝ来ゝ福福糖のゝ

へ13
1963
20

もせぐ。こゝ國一の叢でも。ちんでもかぐも
ら勅。平と。亭菊乃ちうつよ化。如所
乃染と見るるゆ。江戸自慢の鼻うる化。
山吹ゆの物ちぐ。今山のまの乃廉人が
苔ゆ所の一ゆ。角車孫一序よきれ自乃
主て。分ハ國切所乃異よ居て天柄

ゆ。ゆ。ゆ。

變語　山下

千年の嘉吉が形ばかりとどめん万代の長屋が茶飯と接とつゝ廣小路の柱本と貝とよつこつゝ弁店の蒲燒と鼻とひとつゝて

客情ふたつ

ぎかいきれいうこんなないよ九一の級ふ級さ淺草うゝの少神よもりんうゝ子の弟とメ鬼毛どうゝんよあへみ出ーー面くかんりあの神づきんよ新とくくーー出の大小とらりんぬきよさーーぢぐねぢまりよ中ぬきぢくりとさき鶴ぐ掘よとり門山寺のゥと論の鳥る

とーあおこや

モシく

おようるゑんゝ　侍　おそれながら　あゝく　侍　おそれながら　姉さん

ちくとよるゞいうの　三　ゑゝ　アイ　おようるゑんゝ　侍　まづ拙者

さ角の仇名はあんといひやすと　三　ゑゝちがの名を

八兵衛とき　侍　こちらのおもひそおようはあんとこの

いとゝいとゝやまをと　侍　そのいとゝりんそのお夢よ既

ぶけうの憚たあよ　三　ちよとこゝきりく　よりく

おゆりまんゝ　侍　アゼこんこのようまおやそんよ初アア

いとゝ様へちんぶあよコレおそさんやうらァをあつかゝ

さ角とをゝるつぶあがあんとこのあをごんくられまを

角へうのい　そアやアかりのらつそかあゝがりいをのさ

侍　そんぶこうよりくもちるのおざん様へうい　よりごを

をサアニ階イおそるをちんゝ　侍　はゝこごとのぢる角へ

うの　三　アイそこさ　い　ナニ　おそきあゝへそゝくお立

るをちんゝるくるるおんちやアございをん　侍　イヤく

そうぢやアちごん神へうらげ玉さあじやアかづ礼遠て
もつと料のつん出ひものとてい祝いよ
ちきぶの 三 あんるのぶをまつと結句よくしく
くれるあぶよくあやあしあ い あんるのぶり
せん仕四てくさ 侍 二ついとりこアとやかいくさんアよく
ちぶん神へう徒然ぶとあさ 三 ふぶるあれるあ男がよりぶ
ぜん 〇 おアいちよりといひるぶくまてくしさうづき基
ぶのぶりのぶぜん豆豆ぶいの

ちちみ系統
とのときり い あいおる系アよんせん 侍 つんべの家
のあくさあとあいくさせまあよありまくく
こくくく こアやアるあくい張老でぶりやを
ぶ四よアやアるくく痛るさく い それでもぶぶ
とさおく 侍 マアのるるさく い まあおよいるん
侍 をてさていづくのうでもを彩稲の面と
いよ抽ア女房の方うぶぶぶるんぶあよ

きくがハア一の谷の玉あび姫の抵れぐつかアや
男の方ゝゝ辺つぢでやるものよ〻なぜへ侍その時
又越中のあらゝ系あとらふ郎とんのかかり
さ夏がアゼ毛あ蛋のさまあくが遠りゝんぐへ
とりくひでんのッぐちゝ四ゝゝんぐゝ沢のッあゝ
毛蛋へとりく紬がハア紬ゝり夏ッぐ島子のあつ
あゝどの三ゝ毛ッ紬ゝ海ーてゝれゝちやア

巨細のゝゝゝ巡へゝんぐゝゝ霧のとぶつも理ぐ
アッぐ元敦盛ちんの稚ぐアよ仰くちぐ夏の稚ぐ
とひゝらゝやアいゝれ稚へとんくゝきのと
されるゝゝ敦くぐゝ夏ぐゝるのよ〻ちんと稚ゝく
あきゝゝるゝん〻 侍 ひゝちよなの抑ゝく島くかゝる
夏へ〻ちんゝゝゝへゝ知ゝるゝふべてゝんせうあい 侍
ゝんぐゝゝ中ゝ知ゝくつゝあぐゝれるゝゝトー〻 〻夏

かちんとつぎんせよ 侍 イヤくのもとケかんどんのるが
出来ぬ様へよ い ヲヤくききるのをかんせん
ちんとを藤とびるのせん〳〵 侍 アゼかちんとたゝみに
なべどや様へう い それでもおあくく森ろとかんせん
したどやアごぜんせんなへそして言とろかあがを多い
うどふもせくくてあるかぜんに今なうみの日よ
かりでるアいん い のあとつてせん長べへなくくなべへ

とうく森のよ い アイ 拵アア 上んちよう 侍 まづ拵織
へあぐ舟へ い ヲヤなーの後ハ門くの助ぶ 侍 十二月門くみハ
様へうれどるお人のあい時ま 侍 使者の助ぶあるよ
い そのまちちゃアござるせん 侍 そてあんちゃ
だ い いくへかよふおぜんたちあるやー 侍 あと
ちんちィようあさろう い あれきんたびつとかぜい
たをおようるんしるの 長 コラト たこハ

おまぐごぜんにてよ　[illegible]　[illegible]
いちんじやの　[illegible]　あるのし　お客でごぜんと　[illegible]
まぐ産婆があるう　[illegible]　るくいちやアさ　[illegible]　それでもけ
あんちゃるやアさあまぐあるのの　[illegible]
のとくさんさまぐちるどやアさ　[illegible]　ゆぐ沖ぢの
るるあいつごろじいしあとうアあ　[illegible]　でごぜんと
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

えのこのくがたんにてよお出るんよ　[illegible]　ちちへ四よ
くまぐへよ海りよくまぐへうの　[illegible]　海りはんもん　[illegible]　代れ
ごけくまぐてもよいうの　[illegible]　アイよりおぜんと　[illegible]　サアいき
おにまぐへ　[illegible]　ゆーやアたぐこうあんうんもん　[illegible]　海と蒔
はんふれぐあよ　[illegible]　そんるるお出るんとうおさるぐへ　[illegible]　かへ
お出るんとまぐばいさまようどるお出るんるな　[illegible]　それもそぐあ
なア　[illegible]　サアさんへおりるんる　[illegible]　よるけまやアあへおりるるやア

まあ物のねだつてばつかりでは四こんちやあむい
てかりうんみ 侍 ウハそでをへまおさつべけはよ
い お待なんーあてきあ氏 侍 イミよーく 四 てんなつお
さつばへとと二階へとつとつとつとつ ヲヤ 先ごんんどやうんーつ 表
さんハへ 長屋 おいてきんどふんーつでい表いてそーね
さういつふいこんつらる 四 ちふてなんうん アイ 知ゆうと
三 ナニサ 歩ちよりつとといひとあナ 四 なぜへ 長 なのさつふ歩つ

ふんふだやあんさがちよつとあつこのでや東海おあ
さうあるつらいそーいいの 四 ちんなつ表でなぜんせ孫夫
でもつふハよふでぜあせうちつとの内出るれ渡りど 長
あい 三 どふでもつへうんなつとんなつふいつまうん 長
けはよ表よいの 三 イエ 上けはとけいひるもちやいつまでも
ふへーやあちやうんひとまやめてけつうん 長 てんなつたな
けよ表よいの 三 天神食と考つてつへ分雑孫へのてんなつ待て

ねてよとの時約束の物を持てきてくれ　図　ゑんぶ禁の
ぶちやうちやうよの天鵝絨とのけて金とくれて来さ
いの　三　ゑんぶ今度ハ是ぜを持て来てくれよとて
どんなでもえうく今人のきをもちとくれ　図　何よる
ぎやの　三　ちぶ紙ふとゝ　図　金ちやうこぜすみてうよかるの　三
幅ハ寸分程もあれば上ぜ　図　とまやあ安いのあ　三
ぶ布ハ上ぜ　図　ゑんぶ布ときんぞ

いやるいの　三　ぶ名ハ　図　ぶもあんまり初んぐちう面白く極へ
のさ　図　そんなのでみぞいそんなうまいこい　三　先ゑハなもう
一ぷく呑でいきま　図　イヤ　図　ハて居るといつとも思ふるゑハ切
ていこいの　三　そんなうぶよ　図　ハテこいでいなともごを
もおもうるんぢう　図　ゆうやと　三　ぶ百ふ表さんもつまてく
ゆるとさ　四　おこのんかんとよ　図　のこんで居るいの　三
四　おきうぐへかるうぐとの

秀車画

粋事

深川

東方のため　あくして　長谷寺より仏ゝ　中央出格の
黄紙加えて　緑のための中町より深川　裕つぎやづゝ
もき白脚もかるゝ　ばけ角よくと　新へどもどゝ
いつ人もあり　[新吉原]　ゝ　大江辺中ゝ　[客座敷]　十二ゝ
いつも祝ゝ　呑移へぜへ　[持元]　イ、三弦ゝ　よゝ　ノ　お新造
の茶碗でいきつきゝ　あおへ　ゆ合ゝ

やとぜへ 庶系 そのハ魚へるめく 挿 ナニサ はいぜん魚へりやと
のき 庶 さそのちんでもまおごあるごとつかたえ年の
出年の時き 挿 あの時ア あめへねえの紀ありてうえ
さそのんごうう長見てのみやうあのはけどやア神
うう神とうかおぜるんせん孫 庶 どうもあるで歩れ
紙へよ 挿 おあるかれようちおあとごうみ家といえ
ぜへ 庶 ちぜの 挿 見ひるうまれども来るへさどて三編の

ひうるうへーだうううとだとき 庶 ウおいつかひりうあごどうも
うんみごうとくとうつが知ひるんご 挿 それでもりうとう家
もあ出ぜんせう 庶 イニヤ見年ごあつたけうるよ 挿
そんみうまあちうとあようやーうちやアちうと武蔵
屋までいうくせうやとぜへ 庶 又ふあのう 挿 ナニサ あつ
さへあがごぜんと 庶 あう 挿 あい 庶 ちんよ今なのつき
出ーうううーいごるのの 挿 アイちんでも中海の海うと

浮(さゝき)とゝ浮判(ふぐん)さ 左 とんぐるのぐるのぐるの

きちゃア こるいろうあり ろくも祢へ吐とて居
やしく 左 ちとそふじゃア みちあへ表ざーきィ 空ちよが来て
居るそふだろう 中 又そんるすとろうんちよ 左 それ
でもぜんどのみハあるちゃアるんざ 中 ろんよおおも
あれどはぢろも訪とちすたものとまごうたぐう
ちんちのそそりどんえるくちひるんをるろよく
喰いもふと庫の内へ入 左 いるちゃみちるさびたもけぢろの沢ハ

おれも笠ろく居るよるんびまおがあいつろよ悔
まれちゃア あるのおィどんるるもといあつもれ祢へろ
柳ハ ろくあやるるてちれるんのとはぎれへるるの
といつても石ぶ笠ぢ位つき今ろんざる仰ちどんる
るるとちるろ知れ祢へろてよあんるおーるふへきろ
祢へ逸ちのちちゃアあつらでも今点して居るろん
じゃア祢へ 中 ちれざろろ又一時ろもるんのかの山ろ

いんくよこてさうれでもやつてういつてくもはんじ
ぬんじの汁して金いとこやよくどんてもんすんさう
であの人と乳あでもきるる乳すうぬのるるおおり
吸ちそんでごぜんとたん振つりうもおれさうすを 左
ぬりどはうけとちよてうう吸ちぐおれも吸ちハ稲へ
うれどもせんどあのみをおれうん仏ぶれくちよふ
ヲ拾しま吸ちあのぐうう疑ちあへおじやア稲へハサ 中

サアそれもおおのいうんとうでごぜいとそれどもあり
みをみ名でも出てみそどやアるー湯とう乳すうこうち
ぐのじやア稲へ人よ拾まれそといんても泳いとハナ
左 どーしてるおの懐よあんさおを人よたのまれの
るんのといんくとむんごそとやアまへばだま
ちそのが上てのぐうう合点とるものもあるうちう稲へが
おいうアまあ合点ハちく稲へ 中 そんすうちあへどでも

ごうぎんさう 左 ちれさうのさ 中 ちちゃァみおお
もおきさんのようなんでも出るなんとめんごうゆ
ちゃァ結句まるうふとたんく 左 ようなまだま
とがよくまごといのうまんとがおかへとだまーこま
ごぜんといくまうちうがうみる者ごとくもとん
みよいぢゃるんとおぼるねん 左 何もまおお
いぢゃァーー極へ 中 それでもいつかおとだまーこま

がごぜんーてたまとがよくまごのうんのといちんと
左 おーこうんんくそんるういおかう高中まおがいるのうま
帽子をとるくく疲るとちうまあくるへうう浴衣と
持ちくとくちうくとふくとがとふくとどよ結
さごゃァ極へう 中 それがそんるよ彼がえいとそくト町の
おうこ元が金をとられるちごごうけがまくうが八ちどまよ
盗おもちうとでもおお茶の方いとくうどふと

出来孫へあの 庄 盆おのるすがそれるど惜くハ急へハサ
ひどい工面をしてあの金いけへそふ 中 十二サ それが惜い
のわるいのぐそかいよのじゃアございせんハナるんでる
一云いへでひの和よ云ふ質とそれくいぢめちゃんを
おおもと男のようでもぬへそろどふちがいやふ
ちゃんしたらさうぞうときれくお幸さんでも誰でも
よびるんしさぐようごぜんを今をおん安く 波内

てくるくるのをともやんしふが嘘お猫も三ちう
が嘘ぢしくおらんるんしおお牛アそふしたおころ
じゃアみそめへとおりのくるんよ勿雑孫へ牡もうそつけ
孫へかうだよまで疳ウとあとハいまど 庄 それるどよおれ
と切さくハきれくやろうハサ 中 ナニふちがきれてへる
かみそちんでごぜんを 庄 それでもお幸でる誰でもよべ
とふでやア孫へう 中 それもお和ぐ毛理ぢういてるんを

う切さうとのもとさうさおおよるんでて
うあんちゃハあらあらあらんなきれくきまし おあげ来
るんぜん居るうれでうちやァぱちやァいゝとるせん
左そんなのうあへよどうみ法るァ法へ中そるぶとて
もあんよりむごい左と泉と掛くやうあんちゝァむ
きや中ナニふうどもよあこどのそよ左えさァるんでも
あんちよとむきやよ中あい左よサ中あい左何もかそ

あれうあうさ誤るうう法ん中ナニかんよそるの法あ
のといふ中どやァごぜんせんハナ左そんるうきげんと
あをやや中おおもきどんとあをゝるゝ左おうァあとう
よきどんがあをうう中あんまうく悟らい人あァなそうよつく
左あんまあをあけハ孫ハ中えまごいるんそよそんるうあ
うあちやァいやよ左ァいよちへくちふ押対むうへどらう
うあを中あをりよ左ぶ見ぶぎちく

坊客　いろは國字

ゐるうくと待ときや来いく余ゑかいれてまく

のゝあ夜更て　お方お父　おくみさんく　名代お母　あいく

坊客　山花　ゑくおきるめく　お父　お母さんく　ゑさ

くちつと氣をつけなよ　お母　あいく　山花　こゑさく　母

おゝうあゑんなと　父　いみやサまごゝろりるさるの

じやア孫へちつとあつちいつとくんな　母　ヲヤおゝみさん

うへとうちゑゝとおゆり
て眠らつてくすりやせん図おとゝさんの所でも
いつく孫く寄る図そんならいつてゑへうやすふ
図よく寝るまご孫へとゝゑ入四なんでも寝ると
寝さが孫ごりもしやし孫へ図お茶みどうぞしやし
しるんせん山さるゝ廉なるとそれでもお茶
ごふ沸うるまらしいくというまるうち初れ孫へのの

さ山そんなきぐんどやゝ孫へさし氣ぐもあて図あく
ちんは背ゆやゝでぐぶ孫へ立ちたるとつてる四孫へ立
孫へでどふとるちんぐるあんぐるあるの吸ゆもあんる仕内をて
寄て又今夜も名代ぐもの図ぬどもよひのるゝゝ
るうちが寄しんれども名の吸るゝ今雅お茶ぐ右面
屋いきるそつさんぐるうちも孫のこまるふあ
の振るるをもるこの今夜ごとてもあちつと

まく来みされどお茶の方へ出るとれどもおそく来る
さらつこう不肖さそれも外の者共ものうどもとも
りれども夕飯もとへ〜さあごうろどもの仕ごがご
ぜんせん四ちゃあざうろう図十二月あいうそたう祝へ汐
ぐうり丹んでちつらぞかあく四つわどどふ〜〜
図十二月くつわど十二月出るんざあ〜〜ふのこぜんせん四
喰ごうり図喰どやこぜんせん四武士う町人う図十二月

打ぶんのサ四ま茶ゲ居ざあやうまし〜くいかぜへ
図十二月解く解くいるうう〜ぜんをあつとちっ
ようる四ま出ぐ〜〜まちやく図すへ仕中お茶ん
ヤさるのはどやておんなせんせん四仕ちのこ辺で居る
れどもどもまぐちっと立面ゲ悪いよ図アノ名んかう
とやうはまぐちへ四十二名んかうアノ何のうこと何ノ流法
う図くその流法さまぐ麻狐へ人四十三日うう初暮

ぶ図それが麻と出来やそう〳〵山まゼ〳〵ぢあがどぢでも
してゆるよ図わんまう〳〵こうちゃァ尚はして居やせよ山
法ちあてよ法ゃ図こうちも抱法居ときゃァおそ
ぶちあつこうぶ法〳〵まてこうァうんゐ切ゆ〳〵
それであへよ牛変ぐく云ゆこひうれども図立サ抱れも
せへそれがどでもそゆるうれどもどうもうれまゃいう
孫へく図わんでもこしてまてあうんうもぢぐう〳〵

ぶちもは如在ゆ図ァねゆせんぐうよ法〳〵ぢくまくく
ぐうんるせん〳〵図おこうァかうんぐんるさ変うひて居る気
八孫へうう手前も智ぐうどよゆんでうれさぶ名〳〵図
とゆゆァかおおせへまておうんうんゆどぶ〳〵てうち
ぶ智るわんでごぜんゆとうぜう今歩ァきうこうる麻
よゆゆとーて居ゆせんゆねァァ帯ときうん〳〵ゆ山
ちうちのぢぶ法つて居ようぜ〳〵図十二ようごぜんゆと

寝るとたこいかごぜんせん姉そよとうち、斗ようゑん
そねあいとあうちょうようなよ（ようぼーさま）（ぎょうぐ）もぎて（山）くちうと
嫁よめさ（ぎょう）と（ぎょう）同じようぐ（図）ねめへ飯を喰うゑんそうへ
（山）ふハ福へじゃさうんみ喰ふ拍と（図）ようくうんよ
おかつの方のわらじゃ着よりめくの謂名がみそうぐよ
（山）鍋が天蓋波老が緋の衣鍋が大俗正の（図）など
大俗正ふへ（山）ハナいちーのようぐ第とうぐ孫へう

大ようぐ正で宮れば印ようさ沢や（ぎら）出孫へうさ（図）
（立）被ひど孫飯のようハへ（山）ぐのようハ素人ぐふがうと
いうれども麦じゃ知れるうもうわうとうのさ（図）ぐん
ようぐ十三日ようぐふぐうの初るのうへ（山）十三日じゃ右んの
説法さ（図）く拍へいつ来ようへ（山）廿日正でなうぁ
ふうう出へ（図）なぜいつも午の日やぁ出家いさみさる
じゃぁごぜんせんう（山）どもそれでも説わうでも初ると

菊ちゃ八郎ち世孫へ 図 そんなゝ世ちきりと為な
よてゝてこのちやゝ又あつちいいて水やそよ今よ
抽ぶきんをよこしやせふ 山 さあのよい藤く花よふ
うこの水ちそよあくよこさどもも為へハナ 図 そんな
淋しくと藤て花みゝ迫月為るうこと
（ふてもの人虚八月）へく 裏神平 ア為く 図 ちいと目をさ為ゝみ見さ
く 神平 ゆくあく碎うく 図 よく藤うんなの 神 伊時

ぶく 図 モウ 迫月夜ぶ明ちやと 神 そやちやそんぶうこ抽為
まこ為へ時ちゝま起ゝて呉さちれば為へ 図 それでも
心抽よく藤く花みこうるものをこちやちんなまん
ぶうとも世ぶそよおあの歯をそいやた 神 それでもさちき
余ち候がかうくうこ為ちゝ春な話ち時ハ花なこうるんぶ 図 ニ
この時ア為為はいうる時でごぜんせう 神 いてまやそおやア
ごぜんせへ為ちが抽へうこまち抽の為を春よいき中こう

小用所の戸ハ閉て居れ図 ハチヲ そんなら 物を一すと書
き内でこぜんせうとをもあ〳〵まあ〳〵なるべいつ来なこと
神 ユウ〻ふあたいあがあり しあらてハ出あらてハ来
やせう 図 とん〻ら 拾て居ようあ〻 ちんよりの
いつもく ねそうく でこぜんをき 神 そんなら
おいらあやとを 図 アイ 拾てこへ 十五ぶどへ
ゆらうあるよ の書 ぐり戸 ぐるく 鼠が来く

そやわのくと 紙書の 落うれゆく 紙楽
松ヶ人 藤吉乃 社と ぐるを 居るのの
四ようを 柏よ おせんが 面を見ぶ ぐるを ハ
感意も乃 見居 きのもの 日を
の里ようあく又入 おの ようの 婦よ 節や
ちりあるいろは 筆屋 会うし お筆の 内やゆう
しきとあさき 筆ようを ひんぱする

笑止　音羽

三味線の音羽の滝のふうふのぐりつめ
る九丁目のちりうちとん波せび書柳
桜上ゑこ紀まぜく鶴ふまさる縁ゑ赤縁ゑ
若者十義　むしく　家添六　何ぞ　十義　若作
でござりまる　添六　ゑへ女ら元ぐるの　十　ニア市
ろうじゃ　桜とく　ゆり　添　とんなら見よう

ひるふわらくご 十 へこそれお市かこせごよ

子供お市 アイ おりこそげ おぜんせよ さあらうろう

じゃーどもぐあぜんそへ 茶屋の女房 どけへお出なせ

つくも同じこすてごろうませ さあくおあがりなせん

ー 源 嘘きんがそれわどよいるるうろう

やせう 女房 それハもふみ狂ひませとの

ぢやうろうもおやかれへ 源 こちらの方うろう四番めご 女 アノ

ひるたぢと盃へ 源 ウヽ、あれく 女 主殿のあまや

よさあお市きて ぢーきィ入れもふーや 市 さあおあがりなん

ー 源 どどぶく 市 アイこてでおぜいと 源 なんぢ

ちやハくあんどんイまおぜとるそこのコレ茶屋

一盃ちやや 市 アイ 今よいと 源 はるよりとろの浅ぜー

あんどんのとハくくそそうろうて 鼻ぎ 蛭イのぬゥけぐーァでゲイハちゃ

こそのふゥけの 市 おあ茶屋よんせよ 源 ヨトよく

コレ女房の名はなんといふ 市 どのあるこうへ
源 知れたこと知れがやあるよ 市 主殿さんといのまを
源 ちやく連てくるきやや 市 ヲヤけーこうゑへ今よ
お出なさいのそしく 主殿 サア主殿さんよりはぜい
ちやよ 主殿 おいでなんし 源 あい 市 サアおあんなん
源 つねくらやヲヤよーく サアあがよんちやよ
主 おさつりやちやよ 源 久しいちんざがまづくさ

市 サアお出しなんし 主 つぐあへよ 源 ぜのこなきう
んう 主 アイ孫つうう孫ん せん 源 どもあもきせの
源 いけ孫への孫よやうう 主 あぐばおれあかせ
んしうちやア孫どもようごぜんと 源 そんなうよ
やちやうこもちんのうやア天やちん 市 茶びんでも
おれよせちんし 源 甘へおア氣が孫へ 市 主殿が方とむきて
ぐちる 主 サアもあるさちよ 市 うちやアいや 主 そんなう

ゞみそあのうそんなうおそみよんせそみ 添 おそへようう 主
イヽへあみ同しるてごぜんそ 添 サアつゐぐらるやおれ
ようゝ外よ呑人ハ祢へ 主 サアうちぐつゐぐよんせそみおゞ市
ゑへうゝゑそていまや 市 アイそんまうゑそくゑまうゑそよ
主 うよしくサアおゞしるそんゝ 添 これゑハ悔うヨイこゞれ
るくけゑ面のやうゑよまうゑ祢へのひうハさゝ祢へ
あんゞの 主 どゝゑせみゆすゞゝ祢ゑへるすアごぜんせんの

添 いゝまや ひうでゑいゝゝゝるすさゆゝくきてみ
ちうちやアゑゝい 主 十二月 おおどゝゑせ名代同おの月
だゝのサアゆゝぞおれるせんゝ 添 どゝも何も食べそみ
み祢アゆ祢へ 主 満ゑハへ 添 ぞゝうゝゑせへようぐるんぐう
畏畏畏畏の汁の実をうる祢よ麻南菜ぞう沢山ぐ
市 祢ざうみ 杉まて 添 そアちやアるんぐく 市 芹牙でこゝせのうて
おゝんるんゝ 添 まゞうゝぐうういやくいんてゝゝまよ

ぜんご
さとみの祖へ身ぜんごとさうく 主 コレ扨市や紙へ耳と
出しや 市 エちい 主 よ 市 あいく 深 るんごちんとゆて
の 市 おおの扨ちん出さのどやァごぜんせんと 深 伝
のうのさおれまちんこぜさうさんう 主 ヲヤゆるん
せごとも名へてゆさ 深 それでもゆ祖へどやァどふう乳
みうるハ 主 そアやァおすうるのさ とうんとうしく 深
いけぬ汚をうくさのひ 主 ハそとも天りあき
そうの紙をあるて落をあるひちぐくれてく 市
猪と持く赤く ぜんつく深がおへ

主 さあお汚をちんく 深 乳が祖へが一さい茶ごろう
うちをうんうへて赤祖へ 主 アイ扨そうーく乳が
つき祖へを祖おすーをちんくあげやとひるぐう
深 そんすう茶を持くあくうとや 市 アイ持く
赤いく 深 乳のつくちんごのサアかんくうとや
市 扨吸物をおくへちんアー 深 イヽヤちいやすー 市 扨猪
をさげいそよ 深 ドレまちやく茶をのんで仕世てサア

よ〻く 市 猶と さげる 十義 サァあんちゃおいでうさりま〻
源 どこぞの 十 廊下ざ〻きて出張りまして私
が迯て参りませうハイ参でゐざりまして 源
こりゃア小僧ハイちゃ〻んきついうさりざ
まぐれこと参ぐまぐ 十 あい 源 そ
〻く乃あとの乃紙帳のきるよ例刑
ぐみるよ 十 ェあいと今のざきよう ハイ出きぐんよう

源 あ〻〻〻〻の 十 アイいつできまし〻 源 そん
るう体みちん〻〻〻〻 主 ぎり祝ぎん〻〻〻
う〻く といへば 源 おーもしろぎり祝ぎうとして
参もさぎれバ 主 ハそんとさりあおけよ祝て
嘸〻〻やあきまいよョこのぎのつとあェ〻り
とひまぐ〻まち〻〻ものだべ〻〻〻ごとのうーが祝ちひ
んつつとちらぐ〻祝りぐ〻くといびき
うきーがあやう〻用ぐさく祝れハせぐひとうまぢく
〻ごこぐうの〻〻〻まくどうせどうそび来ぬゆく
たぐごこの必きへうるみごう〻とまやーぢ祝のそん紙と
引さききるのぐんうび祝つ〻祝の必るぐやくと

もやし門へひとものき[illegible]と脇のあるまへごろとは
そのきく吸口うう駕くきつけきくもまぎれよ
めんこむせきゝみるもとゝ
やゝきぐゝくゝ　主　芋つけく　ヲヤ
まれ
そんぐゝしい何ぐゝごぜんなて　源　ゐんぐ
そんぐゝしいコレ大振舞イあるぬけらもまそんぶみれん
ぶモウ何ぬけぐゝとあるの　主　まぐ空ゝらぐ
ごぜんせふ　源　ワレそゝゝゝあんけつぐ人う
ハウわるさうる　主　よみごぜんさあナハゝが

人そんく咎やアきあへー　源　十三又廿歳年のあくま
しやアなゝ人ぶ咎あるゝ狐のとゝふのじやゝ
うあゝが来るゝが思へとゝいふのさいい　主　さゝき来
れもよゝ病くおいでゐんそゝ起ゝやゝも
るいとんゝくあつらいきやゝく悪ゐるそん
ゝ　源　ゐんぐ法悪ゝゝゝをかゝ法や山祈、
さ毎ゝやアあゝくゝゝゐんなあまゝゝゝるので

[illegible]
[illegible]
[illegible]

百姓中ノ又四三人とゝ女ら流し金ありこゝろく
とゝまる気しゃ福へ十郎兵衛どゝく
ごぜんと主殿きんごゝしるせんへ三いとゝ
の国ゝ百姓ノ何のもいろ福へ地ゝ皆ちゝ
ゝんゝゝゝ今まで何ふくゝゝあゝてゝく
しい寿福へ弱寿幾とゝるゝゝゝゝゝ乃
ゝゝおれひゝゝ抜きあゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝかいゝゝゝゝゝ福へゝゝゝゝゝゝ
の中ゝ流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ源蔵ゝゝゝ
ゝゝゝ平ゝゝゝゝゝゝの娘ゝゝゝゝゝ
のゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ主殿きんもゝゝゝゝゝゝ
雪よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
十 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

七つ何ぞ〳〵引く若せん〳〵た 定 十二サ 扨金
さんのおくれが霄ござうあのこの示へいんてうて
ねをしたらうゐ今まぐく 十 そそれが悪ごぜん
ぜ何ぞの事母おくれのあうま金ぞの産業ぎ蔵
といふものがあるもんぐごぜんぜ三ま発南はこのこと
ワるふ性ごりまぜうぜ慮悪あるもんくぼまぐぐく
かうゐ〳〵〳〵〳〵〳〵 添 いるあくいるくごぜん

ぜがうのとぜぐようちゃァけち地をきぜ地ぜ〳〵
すのふ乳茶よ名ん〳〵く茶ぐんくこうわぎきう
ぐぜと呼る法もちうく若ぜ 十 そそゃゃ
まの和者の祖〳〵あうとゃァ一すとものとあんせん
ぜのても知れぜぜ何うすふ歌のすぜ
私ふわさうまし〳〵 添 ようごぜんぜこんさま昇
られくあつく成のじゃァ祝へごうちざとつて

も理も非も嘆きけ程へ一重の殿様でもご
ぜんせんそれもどにいとしゆるあんばいう
何も分別ごあんまもいとばよおとのしく歌
のあそうまぐく寝くいきやちよ 十 そそやアそうみく
ぐそごりまさあく〳〵おようまし主殿さん
祝ア〳〵みせんし 主 さあおようおし 源
ハイ更様やせうとうく 十 まぐよう設およう

生まれて ハイ 九郎 源 これはおりの苦労
ぐごぜんし〳〵 十 ナニおそれ へこくハこく
の庶のそうこのまの主云のそうあ
くいびきとあうびのけ金も 主 ハごうく 源 ハあく
まるあく 見の 雲 時うれバまや明け
先のうく 雲の 雲 猿ハ見向う護国るあうき
うの春乃うんぶ〳〵

歌

紅葉の流れを同じ人ぞくさ毛もの
散るをみるあらぐるしき乱のくれる吸物
好物はいとやの者の恵ごとあぶのまるめるる
衣ぬるまぬたづくく執めぬ家のいやみかう
うもるるはいやあしく人のらんを嫌
京のようくはのぐいうはほせて

篝火うの茅蜩川のふる涙流れ
くるる人ぞ山吉毒れ伸るちのらん
者を貝平やじらんものい耳山青羽の
るる小野持ふ山屋の園るとこの形
そ形ぬそう田ちぬ伸ちんようハ山の見
そうごとのぐうて紙乃ちの痔の鼻抜
とちんのちの一味酒の家をねぐちく紙

まうのそきもの鼎とまりいづくに国和名抄
酒さんの茶椀茶碗乃ごとくにつくられ裏茶碗
椀ぬく解く反度徒びの茶碗ふうひやくさつるも
ゆるやんさくく茶あく門茶碗よりもよりもく
の鉢鉢茶碗山茶碗すりこぎ茶漬
茶筅茶碗すりこぎ太とは茶碗とうとうとも
おのーうあこ

醉醒茶碗